

Feb. 2009

“あ”はすべての原点、“そ”は蘇生。  
阿蘇は原点に返って復活する場所。

素顔の阿蘇に触れ、  
自分自身を探してみませんか。

素顔の**阿蘇**を探す旅。

# 大陸

*ASO Continent*

DB1602





トロッコ列車が到着した「阿蘇下田城ふれあい温泉駅」は、駅舎内に温泉がある珍しい駅。後方にそびえるのは、夜峰（よみね）山。

# 過ごしたい時間が きつとある

## 「ゆるっと南阿蘇めぐり」

南郷谷の田園風景、悠々とたたずむ阿蘇五岳。

まるで絵画のような風景が南阿蘇村の大きな魅力の一つだ。  
さらに、そこで大事に守られてきた文化、  
受け継がれる生活や食に出会いたいなら、  
その懐深く入ってみる必要がある。

南阿蘇村では今、そんな観光客を迎える基盤が整いつつある。

### 南阿蘇の魅力を丸ごと

南阿蘇村では昨年、これまでいろいろな団体がそれぞれに取り組んできたイベントを総合化した「ゆるっと南阿蘇めぐり」を開催した。

地元のガイドと歩き、地区の自然や生活文化に触れ、食

を楽しむ「みなみあそくらしめぐり」。村の工芸家やアーティストの作品を一般公開する『南阿蘇村2008谷人たちの美術館』。「あそみなみのあきまつり」や「南阿蘇えほんのくに」での催し、ガイド付きトレッキング「南阿蘇エコツーリズム」などそ

の内容は多彩。これらのイベントを1ヶ月半の間に集約

し、今まで“点”だったイベントが“面”になつたことで、これまで掘り起こされてきた

南阿蘇村のあらゆる魅力が

一体化され、各イベントが協

調しあうことで集客数を増

この“面”を形づくるもう一つの“点”が公共交通機関だ。阿蘇を訪れた人たちが、思い思いにゆっくりと過ごすことを可能にするには、公共交通機関の充実をおいて

これらの取り組みは、すべて、車で訪れて通り過ぎるのではなく、滞在して地元の人と交流し、その生活に触れる新しい旅の形「阿蘇カルデラツーリズム」が基本にある。阿蘇で個人がオリジナルのプログラムで旅をする。「こ

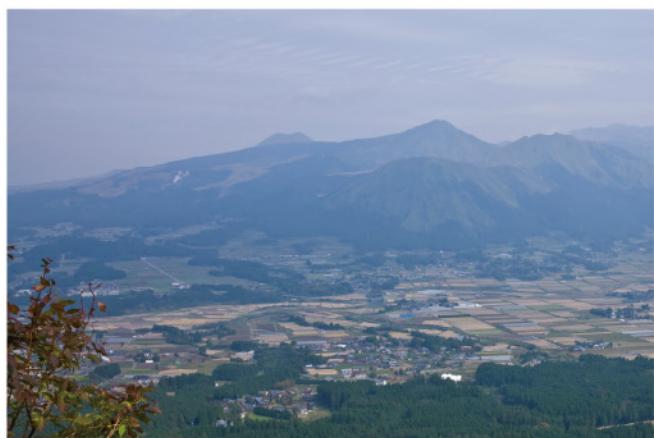
## ”急がない旅“を 南阿蘇から

ス実証実験走行も行われた。観光面での路線バス利用向上は、地元の利便性も高める期待されている。

これらを取り組みは、すべて、車で訪れて通り過ぎるのではなく、滞在して地元の人

んな風に過ごしたい」という旅人の思いにこたえられる滞在型観光の新しい地域ツーリズムが、『ゆるっと南阿蘇めぐり』を開催した南阿蘇村でも始まりつつある。

※「阿蘇カルデラツーリズム」とは、地元のガイドとともに自然に親しむ「エコツーリズム」、農村などで阿蘇の暮らしを体感する「グリーンツーリズム」、そして、商店街や街並みを散策し地元の人々と交流する「ウンツーリズム」の総称で、(財)阿蘇地域振興デザインセンターがプロデュースしている。



南郷谷。阿蘇五岳の山々と、なだらかな裾野に広がる水田が見事な景色を描く。



両併地区を走る『ゆるっとバス』。左に見えるのは市下神社。



「ありがとうございました」と笑顔の運転手さん。期間中は1日4便が運行。南阿蘇鉄道の各駅や観光施設のほか、村内各所に停留所が設けられ地元民の利用も多かつた。

## のんびり歩けば出会いがある 『みなみあそ くらしめぐり』“さろぐ”と“食べる”

『ゆるっと南阿蘇めぐり』の中心となつたのは、『みなみあそ くらしめぐり』である。一昨年に続き2回目の開催で、“さろぐ（歩く）”では、村の12地区を地元ガイドが案内した。

下田地区コースの集合場所は『阿蘇下田城ふれあい温泉駅』。まず一行が目にしたのは、『夜峰山』だ。「阿蘇開拓の神、健磐龍命が身重の妃を隠すために一夜にしてつ

①『西野宮神社』。②心づくしの手料理に舌鼓。③下田家の古民家。④地元ガイドの長野良市さんは、村内にギャラリーを持つ写真家でもある。⑤長野さんのお母さん。「村のためにできることは、何でもせんと」と笑顔。⑥自宅を案内した下田征男さん。



### おいしい南阿蘇

『みなみあそ くらしめぐり』では、“食べる”と題して、村内の飲食施設でオリジナルあか牛メニューが供された。



カレーカフェはひふの「ギューとりゾットカレー」。トロトロ感がたまらない。



そば処ほおづきの「ほおづき膳」。薫り高いそばとあか牛のコロッケは絶品。

くつたという伝説がありまして”とこの日のガイド、長野良市さん。その頂上はなだらかに丸く、優しい形をしている。ふもとには、阿蘇神社の末社『西野宮神社』。その向かい側には安産のご利益があるという『吉祥宮』。集落を歩けば、昔ながらの農家が立ち並ぶ。下田城跡近くに住むのは、城主下田氏の子孫、下田征男さん。案内された家は

散策後は、長野さんのお母さんらが手づくりした山菜おこわやのつpei汁が振舞われた。「この散策を通して自分たちも、忘れられそうになつて、いた地元の生活文化や食を受け継ぐことができます」と長野さん。訪れた人たちが喜んだり、驚いたりする一つひとつが、地元の人々にとつては地域を学びなおすし、生活文化を継承する橋となる。

せた。

散策後は、長野さんのお母

さん

## 見事な自然の造形美 『エコツーリズム・免の石コース』

『免(めん)の石』は、南外輪山の中腹にある奇岩。これまで地元の人も行つたことがなかつた不思議な景観を見るコースが、今回「ゆるつと南阿蘇めぐり」の開催で初めて、南阿蘇トレッキングコースに加えられた。

コースは登り始めからずつと、斜面、斜面、そして斜面の連続。途中の展望ポイントは、足がすくむほどの断崖。しかし、めったに歩めるコースが、今回「ゆるつと南阿蘇めぐり」の開催で初めて、南阿蘇トレッキングコースに加えられた。

最後の難関が、岩場にほぼ垂直に設置された約10メートルのハシゴ。行き着いた先コースは登り始めからい南郷谷の絶景に、思わずため息が出る。

「醍醐味のあるコース。スリリングですが、女性も十分楽しめますよ」と語るのは、このコースの案内人で、地元牧野組合長の佐藤春生さん

にある光景は、なるほど、苦労してでも登る価値がある。両側の岩壁に挟まれて、宙に浮くような丸い岩。落ちてきそうなスリルもあって、参加者から興奮した声がある。

物の自然の懐深くに入り込む興奮がある。「今後、直径が3メートルもある大モミジの木や、岩をくり貫いたような『隠れ岩』と呼ばれる場所もコースに入れて、参加者にもっと楽しんでもらいたい」と思っています。地元案内人がいるからこそ味わえる、贅沢な自然探訪である。



①以前は沢だった、苔むした岩場。②自生するかずらをロープ代わりに。③展望ポイントからの絶景。④最後の難関。⑤宙に浮く「免の石」。この岩場は約200万～300万年前の噴火による凝灰岩。風雨で削られて現在のような形になったと考えられている。⑥佐藤さんとともに、岩場の内部から「免の石」を見上げる参加者たち。⑦案内人の佐藤春生さん。



城弘子さんと『ファンベリー工房』。『谷人たちの美術館』の期間中のみ、4人姉妹で制作する木工やカントリードール、パッチワーク小物や古布物を展示・販売している。



高光俊信さん(左)が奥様と営む『ASO ギャラリー』。鉄工芸品やマフラー、ショールなどを展示販売するギャラリーは、通年で土日のみオープンしている。鉄工やほうき、トンボ玉などを作る『阿蘇ものづくり塾』も主催。

(上・下) 繊細でキュートなデザインのガラス作品が並ぶ一鬼幸恵さんの工房『GLASS・IKKI』。川崎市出身で、南阿蘇村に工房を設立して11年。工房の開放は『谷人たちの美術館』期間中のみ。

「作家がそこにいてお客様と来訪者の距離を近づける。「作家がそこにいてお客様を待つていてからこそ、来てくださる方が増えてきたんだと思います。南阿蘇村を“ものづくりの里”として、もっと知名度を上げていきたいですね」

## 作家と旅人の出会い 『谷人たちの美術館』

『谷人たちの美術館』は、昨年で4年目を迎えた村恒例のイベントだ。昨年は南阿蘇村で創作活動をする39人が、工房や自宅を開放して作品を展示・販売した。「自然があるだけで癒されるのが南阿蘇村。私たちはここで、ものづくりを楽しんでいます。年に一度のこのイベントは、来てくれる人との交流を深めるのが目的です」。そう語るのは、昨年の実行委員長である城弘子さんだ。『人との出会い』が目的だからこそ、一ヶ所に集約して展示・販売するのではなく、それぞれの工房や自宅を開放して作家と来訪者の距離を近づける。「作家がそこにいてお客様と来訪者の距離を近づける。『作家がそこにいてお客様を待つていてからこそ、来てくださる方が増えてきたんだと思います。南阿蘇村を“ものづくりの里”として、もっと知名度を上げていきたいですね』

## 絵本が教えてくれるやさしさ『えほんのくに』



田北雅裕さん（上）と絵本づくり作業風景（右）。『えほんのおしろ』は4～11月の金・土曜日に開館。阿蘇フォークスクール（高森町）内に『えほんの校舎』があり、こちらは通年で利用できる。



南外輪山を車で少し登った中腹に『えほんのおしろ』はある。『ゆるつと南阿蘇めぐり』の期間中は、手作り絵本コンクールや、写真で絵本を作る「PHOTOえほんづくりワークショップ」などを開催した。「南阿蘇にある絵本の雰囲気、それが、ここで活動をする理由です」と語るのは、えほんのくにの事務局長田北雅裕さんだ。「絵本は、子どもたちだけの読み物ではないんです。絵本には大人にも大切な、人としての根本的なことが書いてありますから」。「PHOTOえほんづくり」では、当日撮影した思いの写真に物語をつけた作るワークショップに、家族連れのほか、大人だけで参加する姿もあった。「絵本に触ることを通して、大人の方も、子どもの感覚を大切にして欲しいと思います」

「目的は、南阿蘇の農産物が実際にどんなところで作られているかを体感してもうことです」と実行委員長の古澤順正さん。各テントでは、新米のつかみ取りや野菜の販売ほか、そばや新米で

「あそみなみのあきまつり」は、地元でとれる大自然の恵みが一堂に介する収穫祭だ。楽器の演奏やダンスなどのステージイベントも祭りを盛りあげ、阿蘇五岳を眼前に望む「あそ望の郷くぎの」の広場で、村内外から訪れた大勢の人々が秋の一日を楽しんだ。

「あそみなみのあきまつり」は、地元でとれる大自然の恵みが一堂に介する収穫祭だ。楽器の演奏やダンスなどのステージイベントも祭りを盛りあげ、阿蘇五岳を眼前に望む「あそ望の郷くぎの」の広場で、村内外から訪れた大勢の人々が秋の一日を楽しんだ。

「あそみなみのあきまつり」は、地元でとれる大自然の恵みが一堂に介する収穫祭だ。楽器の演奏やダンスなどのステージイベントも祭りを盛りあげ、阿蘇五岳を眼前に望む「あそ望の郷くぎの」の広場で、村内外から訪れた大勢の人々が秋の一日を楽しんだ。



古澤順正さんは、南阿蘇工コツーリズムの案内人でもある。



そばのテントには行列も。



新米のつかみ取りも行われた。

# あなただけの南阿蘇。“地旅”あります

## ～のんびりアクティブ南阿蘇の旅～

No.25

第25号

ASO Continent February 2009

平成21年2月20日発行 編集／発行◆阿蘇地域振興デザインセンター 〒869-2612 熊本県阿蘇郡一の宮町宮地2402

TEL 0967-22-4801 FAX 0967-22-4802

たとえば、こんな  
アクティビティが  
あります！

- 水源めぐり
- そば打ち体験
- 紙すき体験
- 草木染め体験
- トレッキング



- 陶芸・絵付け
- たまご拾い
- フルーツ狩り
- 野菜の収穫



上記のような体験メニューのほか、火口見学や博物館、美術館めぐり、温泉、ゴルフ、南阿蘇村で開催されるコンサートなど、いろいろな組み合わせが可能。宿泊先も含め、ご要望に合わせたオリジナル旅プランをご用意します。

### プランの一例

1日目

- 12:00 農村レストランでだご汁定食
- 13:00 水源めぐり
- 15:30 草木染めでハンカチづくり体験
- 17:30 温泉宿 or ペンションへチェックイン



2日目

- 10:00 チェックアウト後、南阿蘇ブナ原生林トレッキング
- 12:30 『あそぼの郷くぎの』へ帰着後昼食
- 14:00 村内のお好きな温泉へ



※宿泊費ほか、食事代、体験料、ガイド料、交通費などの費用がかかります。

DATA

**南阿蘇村観光協会** 阿蘇郡南阿蘇村河陽 3575 TEL : 0967-67-2222  
HP : <http://www.minamiasokanko.jp/> ※宿泊施設情報も掲載しています。

(財)阿蘇地域振興デザインセンターホームページ <http://www.asodc.or.jp>

阿蘇の魅力を動画で配信！「阿蘇テレビ」 <http://www.aso-tv.com>

阿蘇広域観光サイト「阿蘇ファンクラブ」 <http://www.asofan.net>

**ASO-NAVI**  
**阿蘇ナビ**  
<http://www.asonavi.jp>



週末のお出かけはこれで決まり！ラジオ番組「ゆっくりのんびり ASO 大陸」(エフエム熊本) 毎週土曜日 12:30~13:00